



西井 弘

社団法人東北経済連合会副会長

## 天然資源を考える

日本経済もデフレ脱却、本格的な景気回復の兆しが見え始めたと言われております。

大変喜ばしいことではありますが、私は、少し先のことを考えますと、最近では不安材料が出始めて来たような感じを持っています。

それは世界的な人口増加やアメリカ、中国を始めとした好調な景気の推移により、消費拡大が続いている影響で多くの資源の供給が間に合わなくなるのではないか、或いは供給は確保されても、価格は上昇傾向にある事であります。特に天然資源に関連する物資が、近い将来不足するのではないかと考えております。

特に昨今は隣国、中国の経済発展が目覚しく、それに伴いエネルギーの元であるオイル、石炭、関連して電力、水等の資源の消費は拡大の一途をたどっております。

私どもも原料として使用しておりますが、日常生活に欠かせないタイヤに象徴されるような天然ゴムも中国の旺盛な消費のために、すぐに天然資源を増産する、ということは出来ません。天然ゴムは一昨年以來3倍の値上がりとなっております。

今後人口が減少するのは日本だけで、65億人を超えた世界の人口は20年後には79億人となり、その時、どこの国が日本に食料を売ってくれるのでしょうか？

「食は広州にあり」中国各地に広州ができました。私がよく行く大連は、世界各国から企業や人が集まり、食通も多くなりました。ベンツやジャガーに乗った大連っ子の行く先は3、4階建ての超豪華な中国飯店、巨大な水槽で泳ぐ平目・鯛・伊勢海老、テーブルには牛・豚・鶏・ダックの皿がところ狭しと並ぶ…この目で見なければ判らないでしょう。中国13億人の食欲、購買意欲は旺盛です。

中国のみならず、インドを含めアジアの発展も目覚ましく、経済発展が続くことは必然的に資源の獲得競争になることでしょう。エネルギー資源確保には色々な施策が講じられておりますが、改めて経済発展、経済成長に必要な資源、鉄鉱石・亜鉛・レアメタルに必要な天然資源、また食料を含めた資源の確保、安全保障をどうするか日本は10年、20年先を見据えて真剣に考える時が来ているのではないのでしょうか。

(弘進ゴム株式会社取締役会長 にしい・ひろし)